

テーマ：地球温暖化とその周辺を学ぶ

関連の深いコース：環境サイエンスコース

1. このテーマを学ぶために

地球温暖化はグローバルな環境問題におけるもっとも重要な問題のひとつです。地球温暖化は大変大きな問題であり周辺に与えるインパクトも大きく、周辺領域にも多様な問題があります。したがって、皆さんが地球温暖化を学ぶとき、その対象になる問題やその学問的な切り口も多様です。どのような周辺問題を学ぶ場合にも、地球温暖化をはじめとする気候変動の科学的な理解は不可欠です。この履修モデルでは、地球温暖化の科学的な理解を深める履修モデルと、周辺問題へ発展させる履修モデルについて述べます。

まず、環境を自然科学から理解する基礎として、「サイエンスカフェⅠ～Ⅳ」を履修しましょう。この科目は、化学・生物学・生態学・物理学を高校のレベルで復習をするものです。とくに気候変動論そのものを理解するための基礎になるのは化学と物理学です。またその影響を学ぶためには生態学の基礎を学ぶと良いでしょう。

つぎに環境問題を地球レベルから理解するために、「自然環境論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」を履修しましょう。とくに「自然環境論Ⅰ」では気候変動論に深く関連した事柄を学びます。

「気候変動論Ⅰ・Ⅱ」では、地球温暖化を中心として気候変動を深く学びます。気候変動のベースとなる気候システムの基礎から、地球温暖化や地球温暖化以外の気候変動についても深く学びます。是非履修しましょう。

これと平行して、エネルギー問題への理解を深めるために「エネルギー論Ⅰ・Ⅱ」も履修しましょう。地球温暖化とエネルギー問題は密接に関連した問題です。また、「環境科学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」は、地球温暖化が環境科学全般における立ち位置の理解に役立つでしょう。地球温暖化はグローバルな現象ですが、よりローカルな現象を理解するためには、「大気と社会Ⅰ・Ⅱ」が役立つでしょう。グローバルとローカルの両方の側面を理解することは重要です。また「環境モデル論Ⅱ」で学ぶシステムダイナミクスは、地球温暖化をはじめとするグローバルな環境問題を俯瞰的に理解するフレームワークとなるでしょう。

最後に、地球温暖化の周辺分野について考えます。エネルギー政策は、地球温暖化に密接な関係があります。「エネルギー政策論」の履修を推奨します。また、エネルギー政策と関連する事柄として、東日本大震災における原子力発電所の事故では、「科学技術社会論」を履修して科学技術と社会の関係を理解することは重要です。他の周辺分野の例としてまちづくりを考えるとときには、「都市環境論Ⅰ・Ⅱ」が役立つでしょう。さらに、地球温暖化はグローバルな問題なので「国際環境法」や「国際環境政策Ⅰ・Ⅱ」などを履修して、国際的な分野に進むこともできます。逆にローカルな取り組みに進むには「環境社会論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」などを履修すると良いでしょう。

2. テーマに関連した推奨科目

サイエンスカフェⅠ～Ⅳ	自然環境論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ	気候変動論Ⅰ・Ⅱ	環境科学Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
大気と社会Ⅰ・Ⅱ	エネルギー政策論	科学技術社会論	都市環境論Ⅰ・Ⅱ
環境モデル論Ⅱ	国際環境法	国際環境政策Ⅰ・Ⅱ	環境社会論Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ